

心理学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
実験心理学特論Ⅰ	心理学・脳科学からみる知覚・認知	2	河地 庸介	1学期	火	2	1	実験心理学特論
実験心理学特論Ⅱ	ストレスと化粧の社会生理心理学	2	阿部 恒之	1学期	水	1	2	対応科目なし
実験心理学特論Ⅲ	神経・生理心理学	2	坂井 信之	2学期	水	3	3	応用心理学特論
実験心理学特論Ⅳ	心理統計法	2	倉元 直樹	1学期	月	2	4	心理学特論Ⅰ
社会心理学特論Ⅰ	犯罪・非行の社会心理学	2	荒井 崇史	1学期	金	3	5	社会心理学特論
社会心理学特論Ⅱ	文化と人間行動	2	辻本 昌弘	2学期	金	2	6	対応科目なし
心理学特論Ⅰ	基礎心理学から臨床心理学への展開	2	山口 浩	集中(2学期)			7	心理学特論Ⅱ
心理学総合演習Ⅰ	特選題目研究Ⅰ	2	阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、 荒井 崇史	1学期	金	5	8	心理学総合演習Ⅰ
心理学総合演習Ⅱ	特選題目研究Ⅱ	2	阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、 荒井 崇史	2学期	金	5	9	心理学総合演習Ⅱ
実験心理学研究演習Ⅰ	認知脳科学の最前線と実際	2	河地 庸介	2学期	火	2	10	心理学研究演習Ⅰ
実験心理学研究演習Ⅱ	感情心理学の展開	2	阿部 恒之	2学期	水	1	11	心理学研究演習Ⅱ
実験心理学研究演習Ⅲ	応用心理学(行動経済学)の文献研究	2	坂井 信之	1学期	水	3	12	心理学研究演習Ⅲ
実験心理学研究演習Ⅳ	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉元 直樹	2学期	月	2	13	心理学研究演習Ⅵ
社会心理学研究演習Ⅰ	犯罪・非行研究の展開	2	荒井 崇史	2学期	木	2	14	心理学研究演習Ⅳ
社会心理学研究演習Ⅱ	コミュニティと文化	2	辻本 昌弘	1学期	金	2	15	心理学研究演習Ⅴ
心理学研究実習Ⅰ	心理学基礎実験	2	坂井 信之、阿部 恒之、辻本 昌弘、 荒井 崇史	1学期	火	3・4	16	心理学研究実習Ⅰ
心理学研究実習Ⅱ	心理学研究法	2	坂井 信之、阿部 恒之、辻本 昌弘、 荒井 崇史	2学期	火	3・4	17	心理学研究実習Ⅱ

科目名：実験心理学特論 I / Experimental Psychology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：河地 庸介 (非常勤講師)

講義コード：LM12210, **科目ナンバリング：**LIH-PSY601J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 実験心理学特論 】

1. 授業題目：

心理学・脳科学からみる知覚・認知

2. Course Title (授業題目)：

Psychology and Brain Science on Perception and Cognition

3. 授業の目的と概要：

人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活している。本講義では、このような情報のやりとりをする「ところ」、その「ところ」を実現する脳について、認知心理学のみならず、情報工学や脳科学等との密接な関連性を意識しながら理解することを目指す。適宜、錯覚等の心理現象のデモンストレーションや心理学実験の実体験に加えて、最新の脳科学的知見・話題をも織り交ぜながら講義を進めていく。

4. 学習の到達目標：

講義で紹介する具体的な実験例や理論・モデルを学ぶことで、種々の心理現象を認知心理学的観点から考察するとともに、マスメディア等に溢れる心理学・脳科学に関する情報を適切に評価できる力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 脳科学と知覚・認知心理学の成り立ち
2. 知覚・認知心理学で用いる「ところ」の測り方
3. 世界を感じるための「ところ」の基本特性
4. 視覚情報処理 (1)：色・運動・奥行き等
5. 視覚情報処理 (2)：形・物体認知・群化等
6. 聴覚情報処理
7. 触覚・嗅覚・味覚情報処理
8. マルチモーダル (多感覚統合) 知覚
9. 注意
10. 注意とその障害
11. 様々な記憶とその限界
12. 様々な記憶とその障害
13. 心的イメージ
14. 問題解決と推論：演繹法・帰納法
15. 問題解決と意思決定：アルゴリズム・ヒューリスティックス

6. 成績評価方法：

試験 (80%) およびコメントシートの提出 (20%) をもとに評価する。

7. 教科書および参考書：

必要に応じてプリントもしくは PDF ファイルを配布する。

8. 授業時間外学習：

講義内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・ホームページなどを通して理解を深めること。

9. その他：なし

科目名：実験心理学特論Ⅱ／ Experimental Psychology(Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之（教授）

講義コード：LM13101， **科目ナンバリング：**LIH-PSY602J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

ストレスと化粧の社会生理心理学

2. Course Title (授業題目)：

Social psychophysiology of stress and cosmetic behavior

3. 授業の目的と概要：

化粧という日常行為を題材に，具体的な研究例を学び，社会生理心理学的アプローチの理解を深める。

キーワード： コルチゾール・アドレナリン・進化適応の環境・いやし・はげみ

4. 学習の到達目標：

社会生理心理学の重要トピックスを学び，独力で研究を行う力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業はテキストに沿って進行するが，状況に応じて内容を変更することがある。

1 回目 ガイダンス

2 回目 ストレス研究史・用語の定義

3 回目 生理学的基盤 1：交感神経副腎髄質系

4 回目 生理学的基盤 2：HPA 系

5 回目 生理学的測定法

6 回目 生理心理学の研究史

7 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 1：生活重大事

8 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 2：やっかい事と気晴らし

9 回目 化粧の文化史

10 回目 謎と研究

11 回目 実験室実験

12 回目 社会的文脈における実験

13 回目 ストレスホルモン分泌を促す心理的要因

14 回目 感情調節装置としての化粧

15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート（50%），平常点と 3 回程度の小レポート（50%）

7. 教科書および参考書：

ストレスと化粧の社会生理心理学（阿部恒之著，フレグランスジャーナル社）

8. 授業時間外学習：

テキストを早い段階で通読すること。3 回程度小レポートを課すので，じっくり取り組んでほしい。

9. その他：なし

科目名：実験心理学特論Ⅲ／ Experimental Psychology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LM23307， 科目ナンバリング：LIH-PSY603J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 応用心理学特論 】

1. 授業題目：

神経・生理心理学

2. Course Title (授業題目)：

Neuroscience and Physiological Psychology

3. 授業の目的と概要：

この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているのかについて理解することができるようになる

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進捗の予定は以下の通り。

第1回 日常生活を支える脳の仕組み

第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に

第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質

第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚

第5回 脳を測る：電気信号と化学信号

第6回 経験に基づく脳の変化

第7回 人の知情意を司る脳

第8回 ものを見るのは目か脳か？

第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？

第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？

第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？

第12回 お腹が空く理由は？

第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？

第14回 記憶を失った青年の話

第15回 心の病気＝脳の病気

6. 成績評価方法：

定期試験（70％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30％）

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布・紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。

9. その他：なし

科目名：実験心理学特論Ⅳ／ Experimental Psychology(Advanced Lecture) Ⅳ

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：倉元 直樹（兼務教員）

講義コード：LM11205， 科目ナンバリング：LIH-PSY604J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 心理学特論Ⅰ】

1. 授業題目：

心理統計法

2. Course Title (授業題目)：

Basic Statistics useful for Psychology

3. 授業の目的と概要：

量的データを用いた研究法を念頭に、データ分析に必要な基礎理論を学ぶ。統計的方法の考え方について、基本から理解し、把握する機会とする。講義に必要な数学的事項は高校段階程度までさかのぼって解説する予定である。統計的な分野について初めて触れる方、これまでに何度か受講経験があっても理解が不十分と感じる方を主な対象とする。人文・社会科学の研究を志す方であれば受講者の専攻分野は問わない。なお、主として授業期間の前半にレポートとして課される演習課題に若干の時間が取られることを予想しておいてほしい。

4. 学習の到達目標：

初等統計学の基礎的概念の習得。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション（1 コマ）

2. 記述統計学（統計とは何か、変数とデータ、尺度の水準、度数表、クロス集計表、連続変数、離散変数、多変量データ、連続データの度数表、ヒストグラム、累積度数折線、数値による分布の要約 [モーメント系、分位数系]、2 つの変数の関係 [相関係数、回帰]）（6 コマ）

3. 調査の基礎理論（古典的テスト理論 [妥当性と信頼性、信頼性係数の推定と向上]）（2 コマ）

4. 推測統計学（確率、条件付確率、確率分布、二項分布、正規分布、確率密度と確率、記述統計学と確率モデル、統計的仮説検定、帰無仮説と対立仮説、検定の手続き、有意水準と検出力、連続分布と離散分布、微分・積分、期待値、標本平均の期待値とその分散、標本分散の期待値、正規分布、標本平均の分布、様々な手法から実験計画へ [期待度数と実測度数、分割表の独立性、相関係数の検定、対応があるデータの平均値、符号検定]、分散分析の基礎）（6 コマ）

6. 成績評価方法：

期末考査 [30%程度]・レポート [30%程度]・出席状況 [40%程度]

7. 教科書および参考書：

教科書：自作プリント（ISTU にアップロードする予定）

参考書：中村知靖，松井仁，前田忠彦共著，2006，『心理統計法への招待』，サイエンス社

8. 授業時間外学習：

8 回のレポート課題を課す予定。授業時間外に予習、復習を奨励する。ISTU 教材の利用も可能とする予定。

9. その他：なし

科目名：社会心理学特論 I / Social Psychology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：荒井 崇史（准教授）

講義コード：LM15308， 科目ナンバリング：LIH-PSY605J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 社会心理学特論 】

1. 授業題目：

犯罪・非行の社会心理学

2. Course Title（授業題目）：

Social Psychology of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：

本授業は、日常で発生する反社会的行為（犯罪や非行）を社会心理学的な視点から捉えることで、そうした反社会的行為を理解するための知識を習得することを目的とする。授業は基本的な知識を提供する講義形式に加えて、必要に応じて受講生同士でディスカッションを行う形式で進める。

4. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

- （1）司法・犯罪分野の制度や法律，各機関における活動や活動倫理を理解する。
- （2）犯罪や非行の原因を社会心理学の視点から理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体ガイダンス：司法・犯罪心理学の歴史
2. 犯罪・非行と社会心理学
3. 刑事司法制度の詳細：成人
4. 刑事司法制度の詳細：未成年
5. 犯罪統計を活用した犯罪研究
6. 犯罪・非行の原因：生物学的要因
7. 犯罪・非行の原因：心理学的要因
8. 犯罪・非行の原因：社会学的要因
9. 犯罪機会論
10. 司法・犯罪領域の心理学的アセスメント
11. 犯罪者・非行少年の処遇
12. 犯罪捜査と社会心理学：プロファイリング
13. 犯罪捜査と社会心理学：取調べ
14. 犯罪予防と社会心理学
15. 本授業の総括と知識確認

6. 成績評価方法：

試験 60%，受講態度 40%（授業内課題 20%，その他 20%）

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし，参考書を講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

初回の授業で紹介する参考文献を，予習として早いうちに通読することを求める。また，各回の授業は，それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって，各回の授業にあたり，それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。なお，授業内容に加えて，授業時間外学習として複数の課題をこなすことを要求する。

9. その他：なし

学習の一環として，心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学特論Ⅱ／ Social Psychology(Advanced Lecture) Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘（准教授）

講義コード：LM25207， 科目ナンバリング：LIH-PSY606J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

文化と人間行動

2. Course Title（授業題目）：

Culture and Human Behavior

3. 授業の目的と概要：

文化やコミュニティに関する理論や研究例をとりあげ、研究の系譜と主要な理論モデル、社会生態環境と適応、文化変容の諸相、現代社会における多文化主義などについて解説していく。

4. 学習の到達目標：

文化と社会に関する心理学、および関連研究領域の主要な理論と研究例を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文化的存在としての人間
2. 人類の多様性と普遍性
3. 文化、進化、学習
4. 文化研究の系譜
5. 心理プロセスの文化差
6. 文化差の理論モデル
7. 人類の進化と適応
8. 社会生態環境と文化
9. 近年の理論と論争
10. 異文化接触の類型と事例
11. 文化変容の理論モデル
12. 文化変容と対人関係
13. 国民国家とエスニシティ
14. 多文化主義の理念と実践

15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜資料を配布するとともに参考書を紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

9. その他：なし

科目名：心理学特論Ⅰ／Psychology(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)， **単位数：**2

担当教員：山口 浩（非常勤講師）

講義コード：LM98831， **科目ナンバリング：**LIH-PSY607J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 心理学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

基礎心理学から臨床心理学への展開

2. Course Title (授業題目)：

Applied expansion from academic psychology to clinical psychology

3. 授業の目的と概要：

基礎心理学としての心理生理学、学習心理学、感情心理学の学問的な知見を、どのように臨床心理学に活かして行けばよいのだろうか。基礎的な知見を単なる知識とするだけではなく、心身の健康 (well-being) への応用を目指し、基礎的心理学と臨床心理学への橋渡しを試みるのが本講義の目標である。

講義形式を基本とするが、時々、実習的・体験的なものを導入する。

4. 学習の到達目標：

基礎的心理学の知見をベースにしながら、①脳と神経系についての基礎的理解ができること、②ストレスマネジメントとしてのリラクセーション訓練を理解すること、③学習心理学から日常の反応・行動の理解と日常生活の well-being の工夫ができること、④心身のセルフコントロール法としてのバイオフィードバックの基礎と応用の理解、⑤ポジティブ感情のメリットの理解、⑥交流分析から自分の性格と対人交流を理解する、⑦人生の意味 (well-being とつながると考えます) を V.E. Frankl のロゴセラピーの観点から理解する、ということを到達目標にする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義は以下の内容を行う予定である。

- 1回目 ガイダンス、心理生理学とは？
- 2回目 脳と神経系の理解Ⅰ
- 3回目 脳と神経系の理解Ⅱ
- 4回目 脳の左右半球機能差
- 5回目 生物リズムと睡眠
- 6回目 ストレスマネジメント～リラクセーション法
- 7回目 学習心理学Ⅰ
- 8回目 学習心理学Ⅱ
- 9回目 バイオフィードバック訓練Ⅰ
- 10回目 バイオフィードバック訓練Ⅱ
- 11回目 ポジティブ心理学
- 12回目 自らの性格を知るⅠ（交流分析から考える）
- 13回目 自らの性格を知るⅡ（交流分析から考える）
- 14回目 V.E. フランクルによるロゴセラピーの理解Ⅰ
- 15回目 ロゴセラピーの理解Ⅱと、全体のまとめ

なお、進み具合により、順番を組み替えることもある。

6. 成績評価方法：

期末レポート（50%）、毎回の小レポート（レスポンスカード）（50%）

7. 教科書および参考書：

パワーポイント等の資料を印刷して配布する。

教科書は特に指定しない。

8. 授業時間外学習：

日常生活の理解とそこへの応用、あるいは臨床心理学への応用を考え、次回の小レポートに報告してもらう。

9. その他：なし

科目名：心理学総合演習Ⅰ／Psychology(Integration Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、荒井 崇史（教授、准教授）

講義コード：LM15505， **科目ナンバリング：**LIH-PSY608J， **使用言語：**日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 心理学総合演習Ⅰ 】

1. 授業題目：

特選題目研究Ⅰ

2. Course Title（授業題目）：

Research on Special TopicsⅠ

3. 授業の目的と概要：

各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。

基本的に、1 回の演習で 2 名がそれぞれ 30 分程度のプレゼンテーションを行う。

発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。

質疑討論はそれぞれの発表につき 15 分程度行う。

この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく、説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。

4. 学習の到達目標：

各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

1 回目 ガイダンス

2 回目 発表と討議（1 組目）

3 回目 発表と討議（2 組目）

4 回目 発表と討議（3 組目）

5 回目 発表と討議（4 組目）

6 回目 発表と討議（5 組目）

7 回目 発表と討議（6 組目）

8 回目 発表と討議（7 組目）

9 回目 発表と討議（8 組目）

10 回目 発表と討議（9 組目）

11 回目 発表と討議（10 組目）

12 回目 発表と討議（11 組目）

13 回目 発表と討議（12 組目）

14 回目 発表と討議（13 組目）

15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

発表（40%）、平常点（30%）、討論への参加（30%）

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

8. 授業時間外学習：

各自、プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメと投影資料を準備すること。

9. その他：なし

履修は原則として、心理学専攻分野の大学院生に限る。

心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し、当該年度に 2 回以上の発表を行うこと。

科目名：心理学総合演習Ⅱ／ Psychology(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、荒井 崇史) (教授、准教授)

講義コード：LM25505, **科目ナンバリング：**LIH-PSY609J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 心理学総合演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

特選題目研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Research on Special TopicsⅡ

3. 授業の目的と概要：

各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。

基本的に、1 回の演習で 2 名がそれぞれ 30 分程度のプレゼンテーションを行う。

発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。

質疑討論はそれぞれの発表につき 15 分程度行う。

この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく、説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。

4. 学習の到達目標：

各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

1 回目 ガイダンス

2 回目 発表と討議 (1 組目)

3 回目 発表と討議 (2 組目)

4 回目 発表と討議 (3 組目)

5 回目 発表と討議 (4 組目)

6 回目 発表と討議 (5 組目)

7 回目 発表と討議 (6 組目)

8 回目 発表と討議 (7 組目)

9 回目 発表と討議 (8 組目)

10 回目 発表と討議 (9 組目)

11 回目 発表と討議 (10 組目)

12 回目 発表と討議 (11 組目)

13 回目 発表と討議 (12 組目)

14 回目 発表と討議 (13 組目)

15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

発表 (40%)、平常点 (30%)、討論への参加 (30%)

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

8. 授業時間外学習：

各自、プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメと投影資料を準備すること。

9. その他：なし

履修は原則として、心理学専攻分野の大学院生に限る。

心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し、当該年度に 2 回以上の発表を行うこと。

科目名：実験心理学研究演習 I / Experimental Psychology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：河地 庸介 (非常勤講師)

講義コード：LM22212, **科目ナンバリング：**LIH-PSY610J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 心理学研究演習 I 】

1. 授業題目：

認知脳科学の最前線と実際

2. Course Title (授業題目)：

The Cutting Edge of Cognitive Brain Science

3. 授業の目的と概要：

本演習では、最新の実験心理学または脳科学（ニューロイメージング）研究論文を取り上げ、①具体的内容の理解、②当該研究が先行研究に対して卓越している点、③仮説検証方法の妥当性・斬新さ、④今後の新たな研究展開、に着目しながら話題提供・討論を行う。演習で扱うテーマは知覚・認知・感性が基本となる。ただし、その他のテーマであっても実験研究であれば取り扱う。

4. 学習の到達目標：

- ①自分自身の研究テーマに必要な情報を読み取り、新たな研究課題を見つけられるようになること。
- ②仮説検証方法を理解し、その妥当性を評価できるようになること。
- ③先行研究との比較の中で、当該研究の意義・新規性を評価できるようになること。
- ④研究の社会的意義について意識できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (演習の進め方)
2. 話題提供・討論
3. 話題提供・討論
4. 話題提供・討論
5. 話題提供・討論
6. 話題提供・討論
7. 話題提供・討論
8. 話題提供・討論
9. 話題提供・討論
10. 話題提供・討論
11. 話題提供・討論
12. 話題提供・討論
13. 話題提供・討論
14. 話題提供・討論
15. 話題提供・討論

*進捗状況および必要に応じて、教員による研究背景・統計・プログラミング等の解説講義を行う。

6. 成績評価方法：

出席(20%)、発表(40%)、討論への参加(40%)をもとに評価する。

7. 教科書および参考書：

授業で用いる論文について指示する。もしくは PDF ファイルの配布を行う。

8. 授業時間外学習：

授業内で扱う研究論文を通読しておくことが必要である。適宜、授業内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・ホームページなどを通して理解を深めることが望ましい。

9. その他：なし

科目名：実験心理学研究演習Ⅱ／ Experimental Psychology(Advanced Seminar) Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之 (教授)

講義コード：LM23101, **科目ナンバリング：**LIH-PSY611J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 心理学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

感情心理学の展開

2. Course Title (授業題目)：

Development of emotion science

3. 授業の目的と概要：

感情心理学の古典と最新の論文を取り上げ、発表と議論を通じて感情心理学の理解を深める。

キーワード： 末梢起源説・中枢起源説・ソマティックマーカー仮説・行動経済学

4. 学習の到達目標：

感情研究の展開を歴史的な観点から考えることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

まずは授業全般に関わる見通しを講義する。3 回目以降は、発表と討議を中心に授業を行い、講読で補足する。履修人数によって変更はあるが、各人が 2～3 回程度の発表を行うことを目指す。

1 回目 ガイダンス・講義 (感情研究史)

2 回目 講義 (心理学と生理学)

3 回目 発表と討議 (1 組目), 講読

4 回目 発表と討議 (2 組目), 講読

5 回目 発表と討議 (3 組目), 講読

6 回目 発表と討議 (4 組目), 講読

7 回目 発表と討議 (5 組目), 講読

8 回目 発表と討議 (6 組目), 講読

9 回目 発表と討議 (7 組目), 講読

10 回目 発表と討議 (8 組目), 講読

11 回目 発表と討議 (9 組目), 講読

12 回目 発表と討議 (10 組目), 講読

13 回目 発表と討議 (11 組目), 講読

14 回目 発表と討議 (12 組目), 講読

15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%), 平常点と 2～3 回程度の発表 (50%)

7. 教科書および参考書：

授業中にプリント等を配布する。web 経由での配布もあり。

8. 授業時間外学習：

指定された内容についてまとめ、パワーポイントで発表資料を作成する。授業 3 日前までにメール添付で提出すること (詳細は授業中に指示)。他の受講生の発表資料もコンピュータ上で閲覧できるようにするので、自分が発表当番でないときは、それを予習して授業に臨むこと。

9. その他：なし

発表資料は受講生全員で共有することを前提に作成すること。

科目名：実験心理学研究演習Ⅲ／ Experimental Psychology(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

学期：1学期, **単位数：**2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LM13306, **科目ナンバリング：**LIH-PSY612J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 心理学研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

応用心理学（行動経済学）の文献研究

2. Course Title (授業題目)：

Seminars on Applied Psychology and Behavioral Economics

3. 授業の目的と概要：

この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

4. 学習の到達目標：

- ① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。
- ② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

最初に与えられた英語の専門書（Behavioral Economics）を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

第1回 導入（講義の進め方／担当決め）

第2回 プレゼンテーションの方法

第3回 文献講読その1

第4回 文献講読その2

第5回 文献講読その3

第6回 文献講読その4

第7回 文献講読その5

第8回 文献講読その6

第9回 文献講読その7

第10回 文献講読その8

第11回 文献紹介その1

第12回 文献紹介その2

第13回 文献紹介その3

第14回 文献紹介その4

第15回 文献紹介その5

6. 成績評価方法：

() 筆記試験・(○) リポート[40%]・() 出席

(○) その他（発表態度）[60%]

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。

9. その他：なし

何か質問があれば、電子メール（nob_sakai@m.tohoku.ac.jp）で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。

科目名：実験心理学研究演習Ⅳ／ Experimental Psychology(Advanced Seminar) IV

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：倉元 直樹 (兼務教員)

講義コード：LM21203, **科目ナンバリング：**LIH-PSY613J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 心理学研究演習Ⅵ】

1. 授業題目：

Fundamentals of Psychological Measurement

2. Course Title (授業題目)：

Fundamentals of Psychological Measurement

3. 授業の目的と概要：

量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。

英語論文の理解と執筆のために標準的な英

4. 学習の到達目標：

心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1コマ)

2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10コマ)

3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10コマ)

(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)

4. まとめ (1コマ)

6. 成績評価方法：

出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]

7. 教科書および参考書：

(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA.

(2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.

8. 授業時間外学習：

担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。

9. その他：なし

授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：社会心理学研究演習 I / Social Psychology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：荒井 崇史 (准教授)

講義コード：LM24213, **科目ナンバリング：**LIH-PSY614J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 心理学研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

犯罪・非行研究の展開

2. Course Title (授業題目)：

Trends in the Study of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：

本授業では、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読し、日常生活で生じる反社会的行為に関連する最新の研究知見を理解することを第一の目的とする。また、他の受講生とディスカッションをしながら、心理学の研究手法の理解を深め、その方法を修得することを第二の目的とする。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけではなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

(1) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、反社会的行為に関する心理学理論や知見への理解を深める。

(2) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、心理学の研究手法への理解を深め、最新の研究手法を修得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定
2. 社会心理学研究の発表・討議 (1)：攻撃性・攻撃行動
3. 社会心理学研究の発表・討議 (2)：怒り・憤怒
4. 社会心理学研究の発表・討議 (3)：暴力
5. 社会心理学研究の発表・討議 (4)：社会的迷惑行為
6. 社会心理学研究の発表・討議 (5)：不正行為
7. 社会心理学研究の発表・討議 (6)：紛争
8. 中間のまとめ：社会心理学と犯罪心理学の関連
9. 犯罪心理学研究の発表・討議 (1)：殺人・暴行・傷害
10. 犯罪心理学研究の発表・討議 (2)：DV, DaV
11. 犯罪心理学研究の発表・討議 (3)：ストーキング
12. 犯罪心理学研究の発表・討議 (4)：窃盗
13. 犯罪心理学研究の発表・討議 (5)：性犯罪
14. 犯罪心理学研究の発表・討議 (6)：テロリズム
15. 本授業の総括と今後の展開

※初回の授業で各自の関心を尋ねるので必ず出席すること。

※初回の授業を受けて、具体的なテーマを変更する場合がある。

6. 成績評価方法：

レポート (30%), 授業準備 (30%), 発表・討論参加 (40%)

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。本授業で取り上げる英語論文は授業内で指示する。また論文については、基本的には各自が印刷等の準備をする。なお、参考書等については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

9. その他：なし

履修状況によって、授業の運営形態や発表回数に変更になることがある。初回の授業で運営形態や担当を検討するので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学研究演習Ⅱ／ Social Psychology (Advanced Seminar) Ⅱ

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘（准教授）

講義コード：LM15207， 科目ナンバリング：LIH-PSY615J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 心理学研究演習Ⅴ 】

1. 授業題目：

コミュニティと文化

2. Course Title（授業題目）：

Community and Culture

3. 授業の目的と概要：

この授業では、コミュニティ、文化、社会行動、集合現象などに関する社会心理学の論文を精密に読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論を学ぶことが目的である。受講生は、事前に論文を読み、関連文献を調べて資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. 学習の到達目標：

1. コミュニティ・文化・社会行動に関する社会心理学関連の理論と研究の方法論を学ぶ。
2. 論文や文献を調べる的確に発表する力を涵養する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入（授業の進め方の説明）
2. コミュニティの文化と変容①
3. コミュニティの文化と変容②
4. コミュニティの文化と変容③
5. 文化と問題対処行動①
6. 文化と問題対処行動②
7. 移動・アイデンティティ・適応行動①
8. 移動・アイデンティティ・適応行動②
9. 移動・アイデンティティ・適応行動③
10. 社会問題と集合行動①
11. 社会問題と集合行動②
12. 社会問題と集合行動③
13. アクション・リサーチ①
14. アクション・リサーチ②
15. まとめ

6. 成績評価方法：

発表と討論参加（50％）、出席（50％）

7. 教科書および参考書：

とりあげる論文を授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

とりあげる論文を授業までに読み、十分に予習しておくことが必要である。

9. その他：なし

上に示した授業計画はおおよその予定であり、履修状況に応じて調整をすることがある。

科目名：心理学研究実習Ⅰ／Psychological MethodologyⅠ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

学期：1学期, **単位数：**2

担当教員：坂井 信之、阿部 恒之、辻本 昌弘、荒井 崇史（教授、准教授）

講義コード：LM12307, **科目ナンバリング：**LIH-PSY616J, **使用言語：**日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名：心理学研究実習Ⅰ】

1. 授業題目：

心理学基礎実験

2. Course Title（授業題目）：

Basic Psychological Experiment

3. 授業の目的と概要：

心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

4. 学習の到達目標：

心理学実験の基本を実験を通じて学び、基本的スキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：社会的態度の測定

第3回：統計解析法

第4回：SPSS

第5回：動物の行動観察

第6回：記憶検索

第7回：鏡映描写

第8回：囚人のジレンマ

第9回：ステレオタイプ

第10回：感覚の尺度化

第11回：反応時間

第12回：幾何学的錯視

第13回：ポリグラフ

第14回：脳機能計測

第15回：応用心理学分野実験

6. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

心理学実験室で指示する。

8. 授業時間外学習：

毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

9. その他：なし

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

後期の心理学研究法と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：心理学研究実習Ⅱ／ Psychological Methodology II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時, 後期 火曜日 4講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：坂井 信之、阿部 恒之、辻本 昌弘、荒井 崇史（教授、准教授）

講義コード：LM22307, **科目ナンバリング：**LIH-PSY617J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 心理学研究実習Ⅱ 】

1. 授業題目：

心理学研究法

2. Course Title (授業題目)：

Psychological Research Method

3. 授業の目的と概要：

心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

以下の授業計画は担当者の都合などによる変更

4. 学習の到達目標：

心理学実験・調査法などの基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：図書館情報検索実習

第2回：心理の仕事（家裁調査官）

第3回：フィールドワークⅠ

第4回：フィールドワークⅡ

第5回：心理測定法

第6回：卒論修論中間発表会

第7回：WAIS-Ⅲ知能検査

第8回：ロールシャッハテストⅠ

第9回：ロールシャッハテストⅡ

第10回：感情評価（覚醒水準の測定）

第11回：カウンセリング

第12回：臨床心理学

第13回：心理の資格

第14回：社会調査会社における心理学の応用

第15回：通期課題のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

心理学実験室で指示する。

8. 授業時間外学習：

毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

9. その他：なし

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

前期の心理学実験と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。